

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フラープ（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 6日 ～ 2025年 10月 4日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 9月 8日 ～ 2025年 9月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 11月 1日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	8	(回答数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様と学校やこども園、保育園等の関係機関と信頼関係を築くことができている。 関係機関から相談事を直接伺うことができる。 家庭や学校での困り事を、訪問により聞き取り、解消する手段を伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様と学校やこども園、保育園との橋渡しの存在であることを意識している。 訪問前に、ご家庭や近況の情報を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の訪問日の頻度を一定に保つことで、関係機関との信頼関係を築いていく。 児童の育ちのための関りを統一できる機会や話題を生み出していく
2	<ul style="list-style-type: none"> 担当を1名に固定せず、訪問での観察に多様な面で見ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関わる先生方の取り組みを保護者様に伝えることを大事にしている。 訪問機関の窓口を固定して、先方からの相談や返答に安心してもらえるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の考えや意図としていることを受け留めながら、訪問員の考えを合わせていく。 お互いの専門性を尊重しながら課題の取り組みやすさと継続しやすさ等を考え支援方法を検討している。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒的、身体的な成長に伴い、訪問による変化が良い方向へ現れることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの環境を観察しながら、こどもの存在位置関係やこどもへの影響の総合的に観察することを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問員の洞察力が必要になってくる。観察による考えと、環境要因を合わせた見解から、訪問員が一人で考えるだけでなく、同じ業務をする職員と共に意見を交わしていく。 ・定期的な訪問会議を行い、訪問員の知識や提供するものの充実を図る。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・月の利用回数が2日の支給のため、訪問への効果を見るまでの期間が長くなる。 ・訪問機関の休業期間（夏休み、冬休み、春休み）において、継続した支援が一時中断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問日の頻度を落とすことなく、予定を立てていく。 ・訪問先の担当職員と連携会議を持つことで、課題の確認と準備を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への連絡は必ず月初に取るようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・普通級で過ごす対象児童に周囲からの配慮を持ちながら、訪問を行うことにクラスの雰囲気や授業の内容によって、特別視されないかを心配する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる児童に気づかれぬように、クラス全体を観察しているように見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装から、先生方のスタイルに似せたものを着用するようにしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡手段を電話を主な手段としている。そのため、話をする時期を逃しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらからの連絡を積極的にする。 ・連絡手段をメールまたは、ファックスにて行うことを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当窓口を事業所のメールまたは、ファックス番号を知らせて連絡の調整を図る。